



## 第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色

この章では、島根県内において様々な建築物や工作物等を新築または改築する際の、設計対象物に応じた色彩選定の考え方と具体的な色彩範囲が述べられています。

以下に、まず、景観色彩調査の結果に基づいて立案された島根県における景観色彩計画の全体計画を示し、次いで、第3章で述べた景観タイプごとに推奨される色彩を述べています。

### 1 全体計画

第3章で述べた景観タイプごとに、どのような方向性を目指して計画を進めるか（景観色彩計画の方針）、また、それによるどのような方法により行うか（景観色彩設計手法）を p. 56 の表および p. 57、58 にまとめています。以下の解説とともに参照してください。

#### 景観色彩計画の方針

島根における景観色彩計画の方針を、以下のように大きく4つの方向性にまとめています。

- (1) 水辺の明るい景観を強調する色彩設計
- (2) 農地景観を含めた自然性の高い、明るく穏やかな生活環境の実現を目指す色彩設計
- (3) 山間部の落ち着いた自然景観になじませる色彩設計
- (4) 地域の用途や機能に応じたまちなみ景観を創造する色彩設計

#### 景観色彩設計方針

既存景観に対して「どのような色彩設計手法をとるか」について、〈景観色彩設計手法〉として5種類に分類しています。それぞれの手法と該当する景観の型は以下のとおりです。

##### (a) 「自然景観色保全」型

自然景観が資源となる地域。

既存景観の印象を変えることのない色彩を使用する。

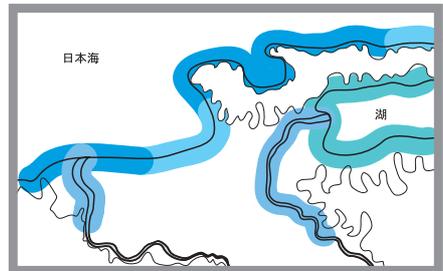
##### (b) 「自然景観色活用」型

良好な自然景観を持つ地域。

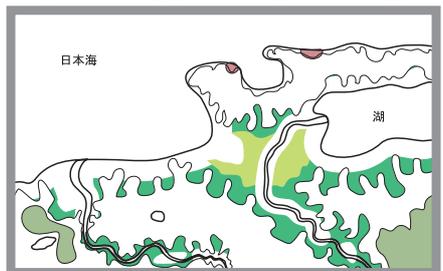
〈代表景観色彩計画の方針〉



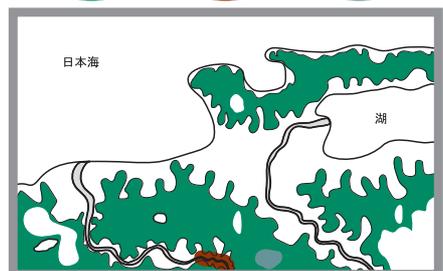
景観タイプ区分模式図



(1) 水辺の明るい景観を強調する



(2) 農地景観を含めた自然性の高い、明るく穏やかな生活環境の実現を目指す



(3) 山間部の落ち着いた自然景観になじませる



(4) 地域の用途や機能に応じたまちなみ景観を創造する

自然景観の良好な特徴を強調する色彩を使用する。

(c) 「付加価値」型

新たな印象が加わることにより一層魅力的になる景観地域。既存景観に不足する要素を補う色彩を使用する。

(d) 「創造」型

地域の用途や機能によって、それぞれにふさわしい景観の創造が期待される地域

(e) 「既存景観色改善」型

色彩の使い方を変えていくと、良好な景観に改善されると考えられる地域。

各景観タイプの「景観色彩計画の方針」および「景観色彩設計手法の型」

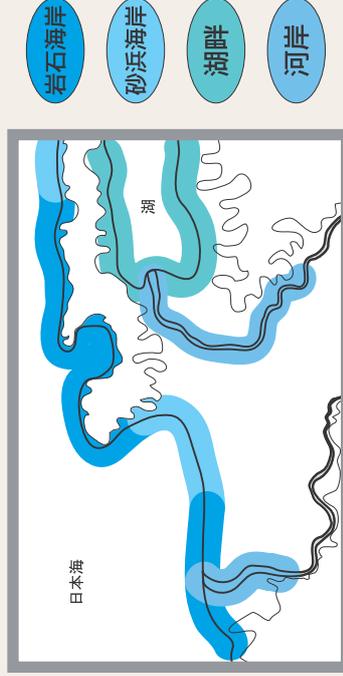
	景観色彩計画の方針				景観色彩設計手法の型				
	(1) 水辺の明るい景観を強調する	(2) 農地・高地・丘陵・湖沼の環境の明らかな実現を目指す	(3) 山間部の落ち着いた自然景観に馴染ませる	(4) 地域の用途や機能に応じた色彩景観を創造する	a 「自然景観色保全」型	b 「自然景観色活用」型	c 「付加価値」型	d 「創造」型	e 「既存景観色改善」型
① 岩石海岸	○					○			
② 砂浜海岸	○						○		
③ 港・大規模漁港				○			○		
④ 小規模漁港・漁村		○					○		
⑤ 河岸	○					○			
⑥ 湖畔	○					○			
⑦ 平野田園		○				○			
⑧ 丘陵田園・盆地田園・山地田園		○					○		
⑨ 畑作農地（平野）		○				○			
畑作農地（丘陵・盆地・山地）		○					○		
⑩ 山中			○		○				
⑪ 高原			○		○				
⑫ 溪谷			○		○				
⑬ 歴史的まちなみ				○		○			
⑭ 温泉街				○				○	
⑮ 一般市街地（都市型）				○				○	
一般市街地（小規模まちなみ）				○			○		
⑯ 沿道景観*	該当景観の方針に従う								○

\* ⑯沿道景観は、特に独立した景観タイプとして設定しているものではなく、どの景観タイプにも出現する景観です。ただ屋外広告物の存在が、どの景観タイプにあっても少なからず共通の印象を与え、今後は色彩の使い方を変えていくことが望ましいと考えられるため、特に「既存景観色改善タイプ」として位置付けています。

なお屋外広告物はアクセントカラーとして扱います。色彩選定の考え方や推奨色については、各景観タイプの該当箇所を、また第5章の「標識および公共広告」を参照してください。

同じ景観色彩設計手法をとる景観タイプであっても、それぞれの景観によって推奨色は異なります。

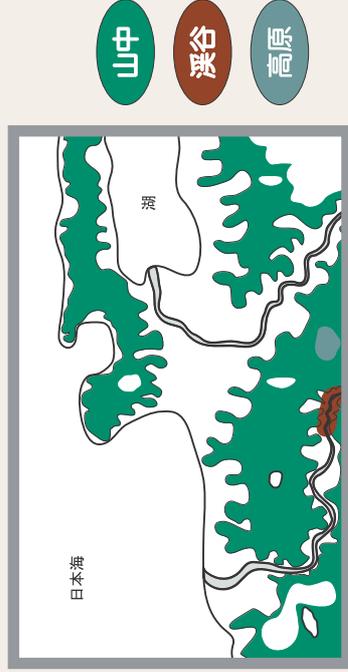
景観色彩計画の方針



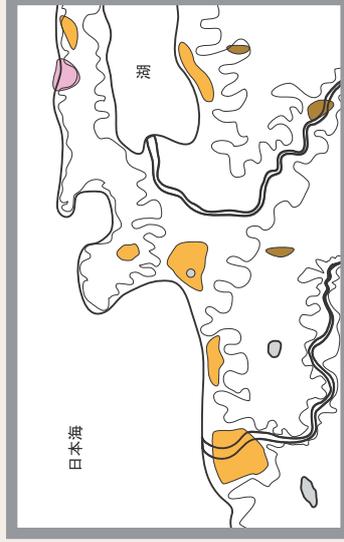
水辺の明るい景観を強調する色彩設計



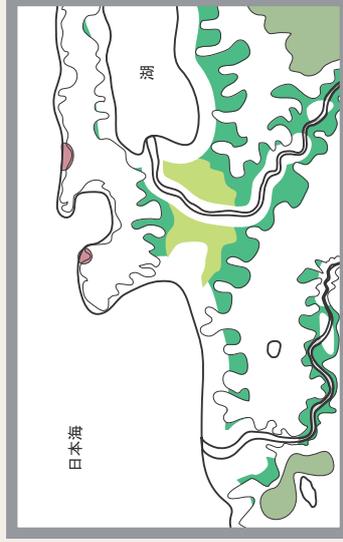
この図は模式図であり、実際の区分図と一致するものではありません。



山間部の落ち着いた自然景観になじませる



用途や機能に応じた色彩景観を創造する



農地景観を含めた自然性の高い、明るく落ち着いた感じられる生活環境の形成をめざす

景観色彩設計手法

「自然景観保全」型

自然景観が資源となる地域。既存景観の印象を変えないことのない色彩を使用。

- 山中
- 渓谷
- 高原

「自然景観色活用」型

良好な自然景観を持つ地域。自然景観の良好な特徴を強調する色彩を使用

- 岩石海岸
- 湖畔
- 河岸
- 平野田園
- 畑作農地 (平野部)
- 歴史的まちなみ

「付加価値」型

新たな印象が加わることにより、一層魅力的になる景観地域。既存景観に不足する要素を補う色彩を使用。

- 砂浜海岸
- 港
- 漁村
- 丘陵・盆地 山間部
- 畑作農地 (山間部)
- 小規模まちなみ

砂浜海岸は近隣に民家が並ぶケースが多いためこのタイプに分類

「創造」型

地域の用途や機能によって、それにふさわしい景観の創造が期待される地域

- 都市型市街地
- 温泉街

「既存景観色改善」型

色彩の使い方を変えていくと、良好な景観に改善されると考えられる地域。

沿道景観

### 「自然景観色保全」型

自然景観が資源となる地域。  
既存景観の印象を変えない色彩を使用。

山中

植生の色彩と融和するのは、その地域の土・岩・砂や幹の色彩である。自然素材やそれに準じた材料を用いる。

渓谷

高原

山中・渓谷と同様だが、冬にスキ一場となる地域も多く、温かみを感じさせる配慮も必要。

### 「自然景観色活用」型

良好な自然景観を持つ地域。  
自然景観の良好な特徴を強調する色彩を使用

岩石海岸

背景の良好な環境色に合わせる。  
背景が空：明るい色彩を使用  
背景が山腹：穏やかな色彩を使用

湖畔

水際はホワイト系を用いて背景の山並みに対してコントラストをつけ、さわやかで開放的な既存景観をより強調する。

河岸

中国山地から日本海まで連続していることがイメージできる共通の景観要素を持たせる。堤防沿いの建造物にホワイト系を用いる。山並みを背景にホワイトを引き立たせ、大河川の雄大な印象を強調する。

平野田園

屋敷林(築地松)より暗い色彩の壁面使用は避け、全体の明るい印象を強調。規模の大きい建造物では、背景が空となるため特に高明度色がよい。

畑作農地(平野部)

歴史的まちなみ

近隣の歴史的建造物の外観と違和感のない色彩とする。素材についてもできるだけ同様のものを用いる。

### 「付加価値」型

新たな印象が加わることにより、一層魅力的になる景観地域。  
既存景観に不足する要素を補う色彩を使用。

砂浜海岸

明るく広々とした印象を強調する。さらに冬場には寒々しくなりがちな地域なので、生活圏の近くでは温かみを感じさせる配慮が必要。

港

岸壁ゾーンは明るく、さらにアクセン・トカラーを使った活動的な雰囲気や、人工美を感じさせる表情があってもよい。

漁村

水際は明るく、山沿いは落ち着いた雰囲気と、既存景観の印象に沿った計画とする。

丘陵・谷地  
山間田園

周辺を落ち着いた山並みの色彩が占める景観が多い。

農家の点在した地域が多く、生活環境としてのエリアであることから、明るい雰囲気も必要。  
明るさと落ち着きのバランスが取れた景観をめざす

小規模まちなみ

近隣から人々が集う地域でもあり、賑わいの演出も必要。  
周辺の自然景観との関係にも配慮する。

### 「既存景観色改善」型

色彩の使い方を変えていくと、良好な景観に改善されると考えられる地域。

沿道景観

沿道の周辺は通行車両に向けた自己主張の強いメッセージが氾濫している。  
地域全体の景観的な配慮が必要である。

### 「創造」型

地域の用途や機能によって、それにふさわしい景観の創造が期待される地域

都市型市街地

用途地域等によって、景観色彩のあり方は異なる。  
商業地域：賑わいを求めて集う地域でもあり、色彩についてもその表現が求められる。繁雑にならない配慮も必要。  
景観整備地区ではコンセプトに沿った色彩選定を。

住居地域：明るく穏やかな雰囲気を。  
工業地域：殺風景にならないうちなので、活気ある雰囲気づくりも必要。

温泉街

保養地として、落ち着きの中にも賑わいの感じられるまちなみ形成を計る

## 2 推奨色

### 2-1 共通の推奨色〈ルーフカラー〉

屋根の色彩は、良好な景観を形成する上で大きな役割を占めています。

各地で多く見かける瓦は通常はグレイ系からブラック系、色みがついても暗くにぶい色で周辺景観に対して控えめな存在です。このような色調の瓦は周辺の自然景観を美しく見せます。ただ古くから存在する緑青による緑の屋根や耐寒性の釉薬をかけた赤瓦は、周辺の植生ともなじみがよく、良好な全体景観を構成する要素となります。

特に石州の赤瓦は、春や夏の植生とはほど良い対比感、秋には紅葉と融和的な調和感を生み、さらに冬の寒々とした寒冷地においては景観全体に温かみを加えてくれる色彩です。

石州赤瓦の色域は、色あいがイエロイッシュレッド（黄みの赤）からオレンジ系（マンセルシステムの7.5Rから7.5YR）、明度は2.5から6.5、彩度は3から10までの範囲にわたります。この範囲に入る色であれば赤瓦としての統一感がうまれます。ひとつの集落を濃い赤瓦で統一した地域や、比較的色彩のうすい明るい色で統一した地域というように、ほとんど同じ色の赤瓦で集落を統一した事例を県内では多く見かけました。島根全域の特性と地域特性の表現をうまく両立させた事例だと思われます。

島根は石州瓦という産業と景観の両面に関係する伝統を持ち、それが島根らしい景観に結びついています。地場産業がその地域の景観的な特徴に結びついて独特の良好な景観を形成してきた事例はかつて多く見られていましたが、いまでは数少なくなってきました。

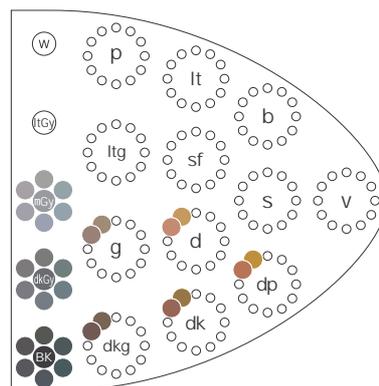
そのような特徴を持つ島根の屋根瓦ですから、大切にしたいものです。

島根全域におけるルーフカラーのルールとして、グレイ系・ブラック系および石州赤瓦以外の色は、まず、パープル系やイエロー系は用いないこととし、さらに〈レッド系（特に紫みの赤）・グリーン系・ブルー系〉は暗くにぶい色調から選ぶことにします。ただ、グリーン系については、緑青が自然発色する範囲までは推奨色の範囲とします。

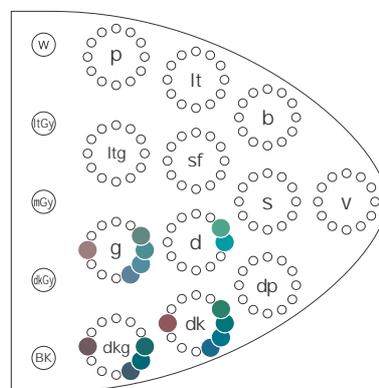
濃い赤瓦の多い集落



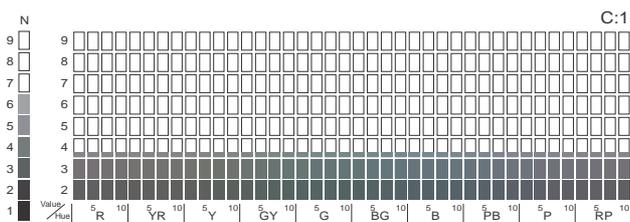
うすい色の赤瓦で統一された集落



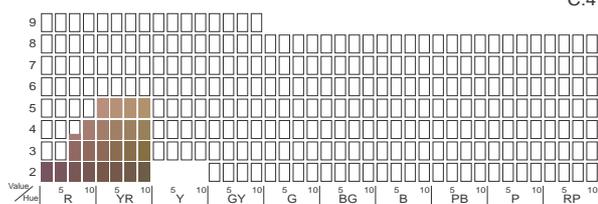
「グレイ系・ブラック系・石州赤瓦」の範囲



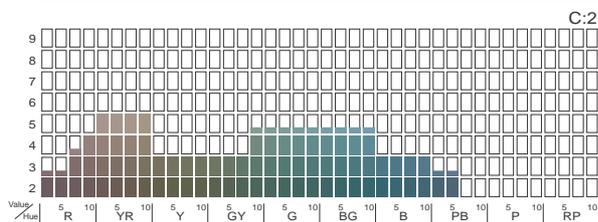
「グレイ系・ブラック系・石州赤瓦」以外の推奨色範囲



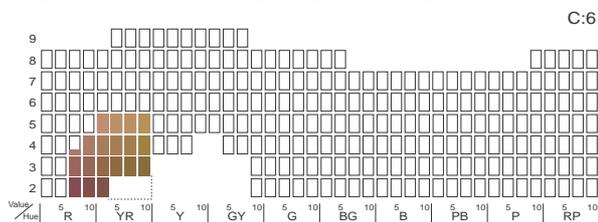
C:1



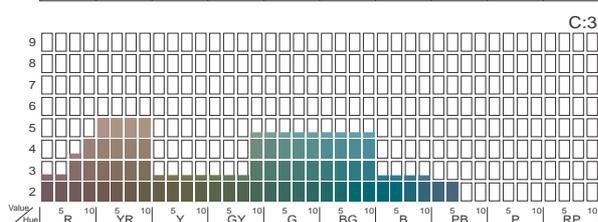
C:4



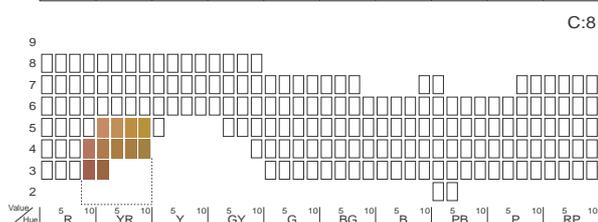
C:2



C:6



C:3



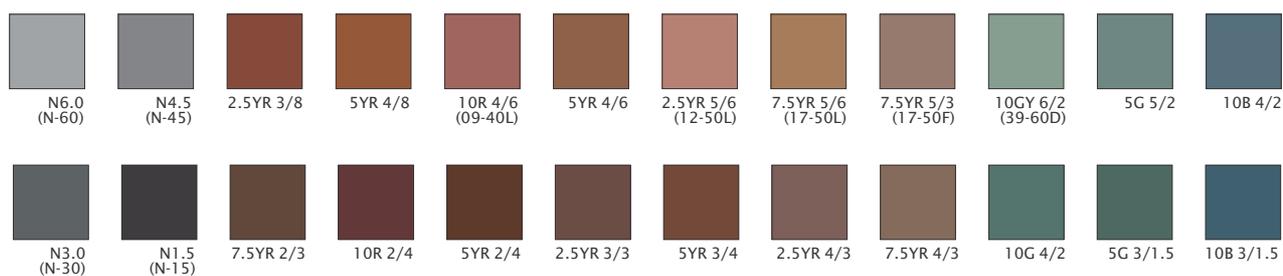
C:8

表示色全体：ルーフカラー

ルーフカラーの範囲

## カラーパレット ルーフカラー

### メインカラー



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

## 2-2 各タイプ別の色彩的特徴と色彩選定の考え方

ここでは前章で分類した景観タイプについて、それぞれ各タイプの色彩的特徴をあげ、さらにその特徴を生かした施設の色彩を選定する考え方について解説しています。

景観の印象に強く影響を及ぼし、周辺景観色からも影響を受けやすい〈メインカラー／サブカラー〉の推奨色について、具体的な色彩範囲をあげながら、その考え方を解説しています。

〈リブカラー〉〈アクセントカラー〉も〈メインカラー／サブカラー〉選定の考え方と密接に関係し、さらに景観の印象を変える色彩ですから、その範囲や使用法について取り上げています。また、同じ色を用いても対象物の距離や季節が変化すると印象が変わるケースについては、できるだけ多くの事例をCGシミュレーション画像によって作成して掲載しました。色彩選定検討時にご活用下さい。



〈海や空の明るい雰囲気〉



〈山腹の落ち着いた雰囲気〉



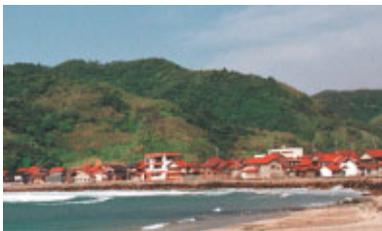
明るい背景を生かした白い灯台とレストラン(一部シミュレーション)



現状：尾根に建つ板張りのコテージ  
(自然素材なので問題にはならない)



人工素材と仮定した場合の推奨色でシミュレーションした事例



現状



山沿いの陸屋根の明度を落とし、海岸沿いを明るくしたシミュレーション事例

## ① 岩石海岸

色彩的特徴

自然物の構成色は、「海の色」「岩の色」「山の色」「草地の色」が大部分を占めます。景観色は視点場によって異なり、高い視点場では岩場の見えない景観が多くなります。

海の色は、空の色を反映するので天候によって異なります。季節によって天候の割合が異なるため、海の色は季節によって異なる感じがします。

山の色は季節によって異なりますが、岩石海岸の山林は常緑樹が多いため、秋でも紅葉した樹木が濃い緑の中に点在する程度です。草地は、秋から冬にかけてイエロー系やブラウン系となります。

多くの視点場で、近景の岩石や山林が遠景の空や海に対して明快なコントラストを持ち、その形状とともに極めて男性的な印象を与えます。

### 色彩選定のポイント

この地域の良好な景観を構成する色彩として、大きく二つの傾向をあげることができます。ひとつは、空・海面・波のブルーやホワイトによる明るい雰囲気を形成する色彩。もうひとつは、岩・樹木・下草などの落ち着いた印象を与える色彩です。

眺める地点によって印象が異なりますので、設計対象物の背景を確認して、その特徴を生かした色彩を選ぶことが大切です。

### メインカラー／サブカラー選定の考え方

#### 〈主要視点場：背景の多くを空が占める／海岸線に立地する〉

建築物主壁や建造物の大面積部位については、周辺景観の明るい雰囲気を壊さない色彩の中から、さらに、主役が自然景観となるような鮮やかさを抑えた色彩を選びましょう。

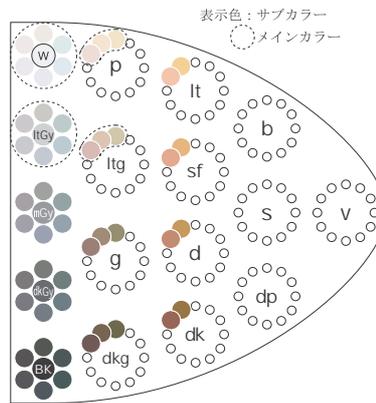
#### 〈主要視点場：対象の背景が山〉

施設の主壁やその他の大面積部位には、周辺景観の落ち着いた雰囲気を壊さない色彩の中から、さらに、主役が自然景観となるような鮮やかさを抑えた色彩を選びましょう。

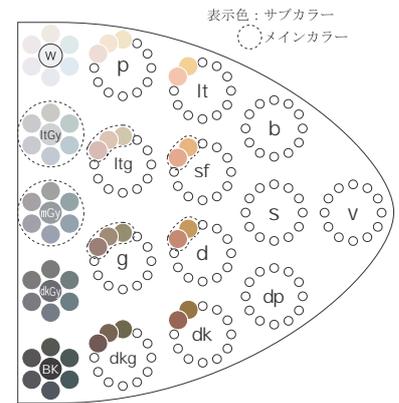
\*自然素材（木材や自然石）であれば限定しません。

サブカラーはメインカラーのみでは単調となるため、中景や近景での表情を演出する目的で用いられるケースが多く、

自然景観を生かすためには、メインカラーとの配色も自然な印象を持たせる組み合わせが良いでしょう。同一色相や類似色相の配色は自然な印象を与えます。メインカラーとサブカラーの推奨色の中からどのような組み合わせを選んでも同一または類似色相配色となります。



主要視点場: 背景の多くを空が占める／海岸線に立地する場合のメインカラー・サブカラーの範囲

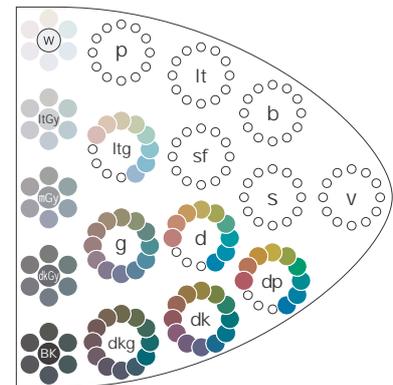


主要視点場: 対象の背景が山や岩の場合のメインカラー・サブカラーの範囲

### リブカラー

面積的には全体景観に及ぼす影響はメインカラーほど高くはないのですが、橋梁や歩道橋などは、中景や近景で景観の評価を左右します。また、景勝地の橋梁などは、全体景観に対する位置付けによって色彩の方向が変わってきます。ランドマーク的な扱いとする場合は鮮やかな色彩を使う事例が多くなりますが、そのようなケースでは十分な根拠が必要となります。

右図のように推奨色は低明度・低彩度色に寄った範囲となっています。同じトーンであってもふさわしくない色相が出てきます。例えば、ライトグレイッシュトーンのレッド系でピンクと呼ばれる範囲の色や、ディープトーンとダルトーンのパープル（紫）系・バイオレット（青紫）系の色です。自然景観では花の色として彩りを添える色ですが、人工構造物では自然景観にそぐわない色です。



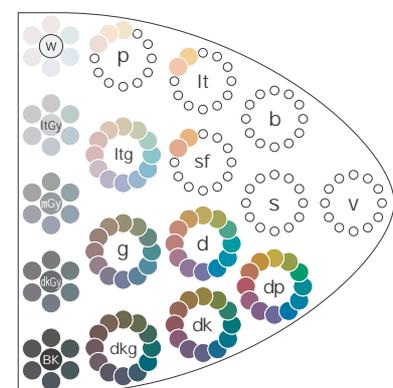
岩石海岸<リブカラー>

### アクセントカラー

この景観タイプには景勝地が多いため、アクセントカラーは控えめに扱うことが望まれます。

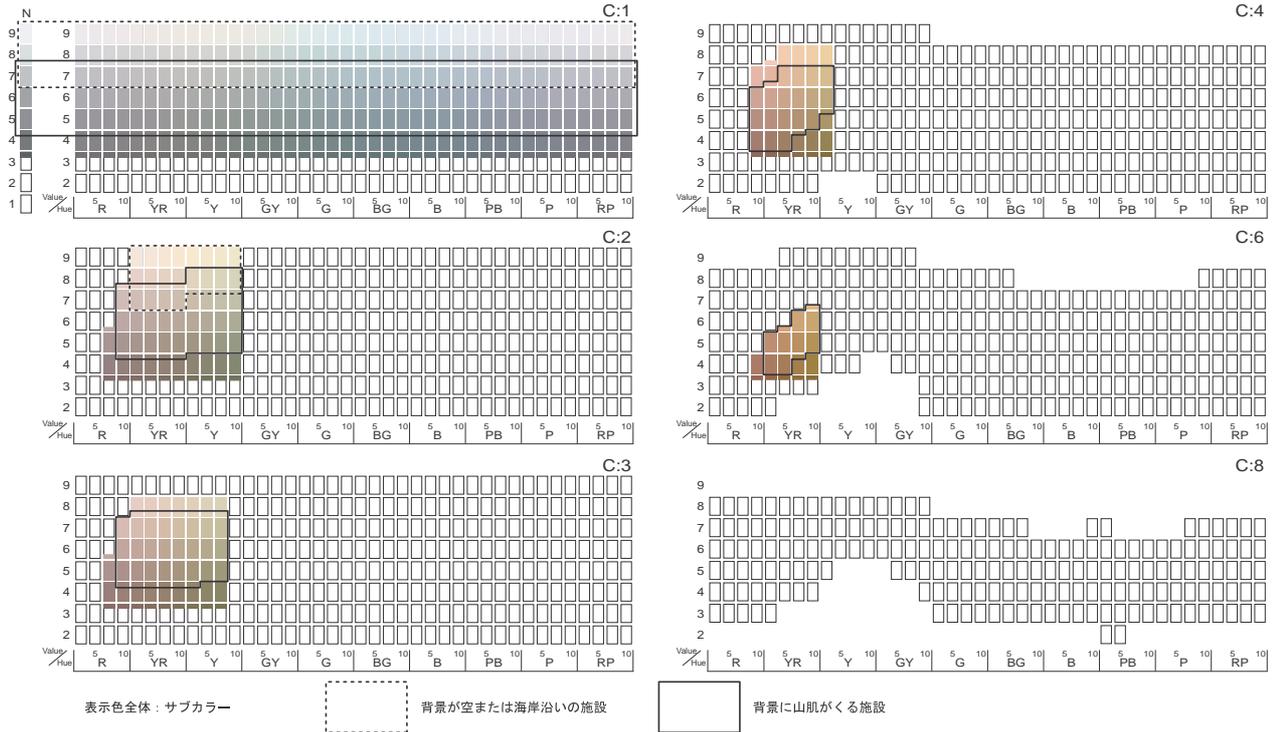
物産店などにも鮮やかな色や蛍光色は避け、近景においても自然景観の雰囲気を損なうことのないように、面積比などに留意しましょう。

配色における留意点としては、アクセントカラーに隣接するメインカラーやサブカラーが暗いブラウン系の場合は、暗いグリーンやブルーは不明瞭な印象を与えるので避けた方が良いでしょう。

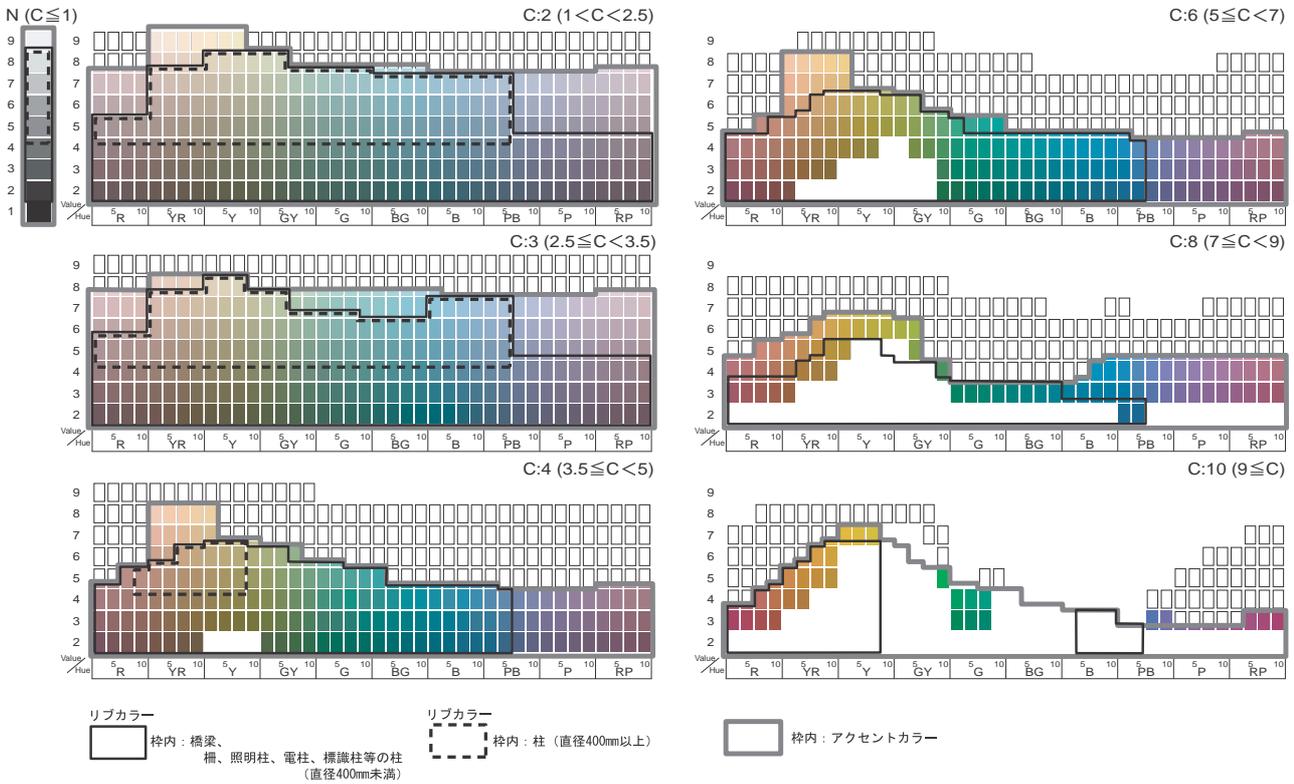


岩石海岸<アクセントカラー>

水辺景観：①岩石海岸



岩石海岸〈メインカラー／サブカラー〉

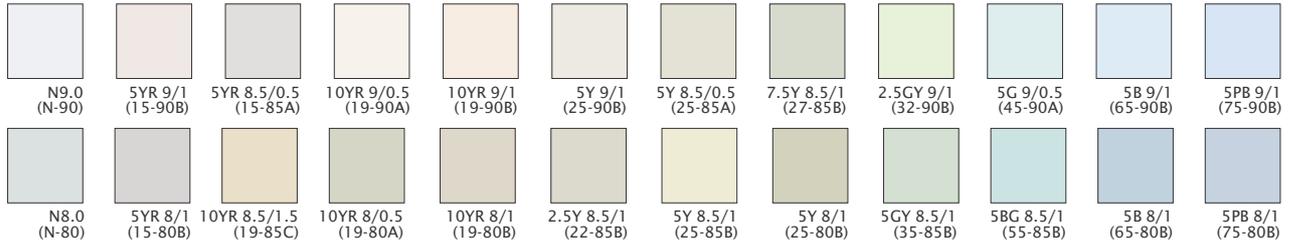


岩石海岸〈リブカラー／アクセントカラー〉

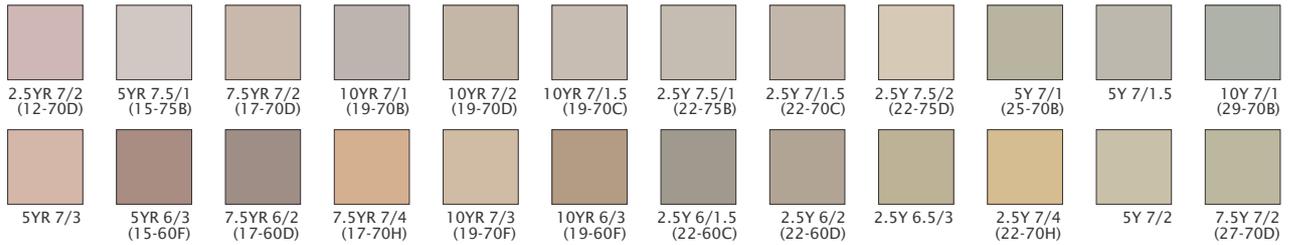
## カラーパレット 岩石海岸

### メインカラー

#### ■背景が空または海岸沿いの施設



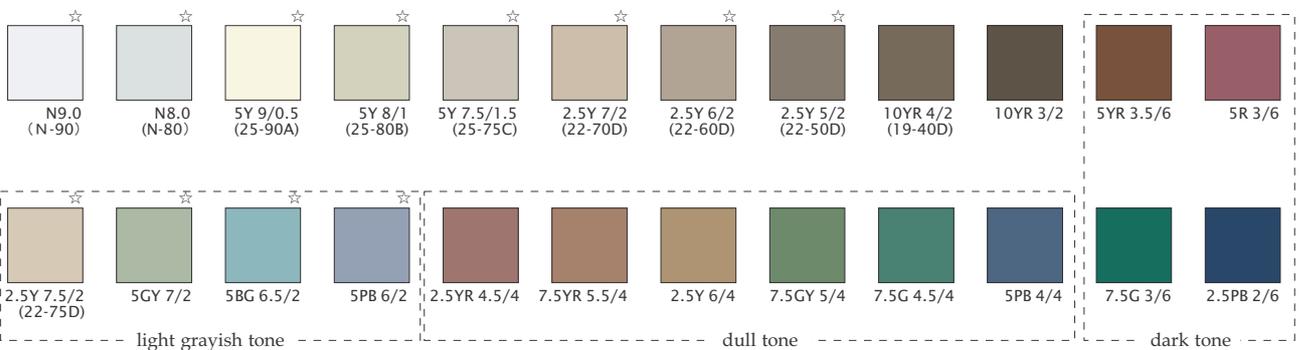
#### ■背景が山となる施設



### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

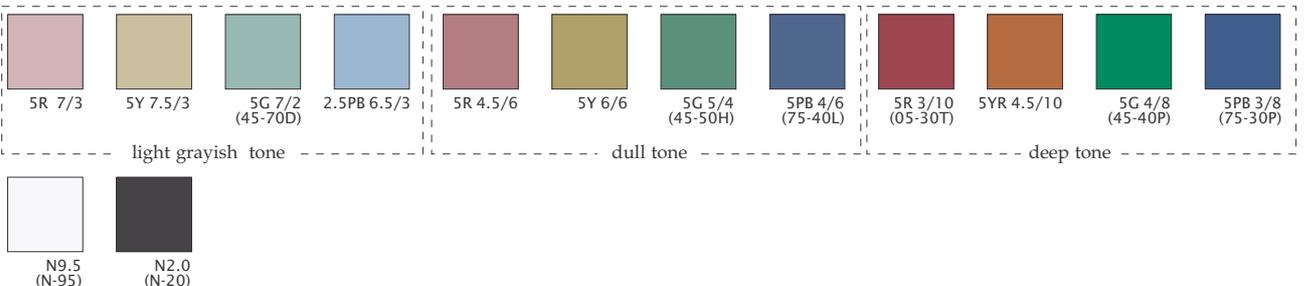


### リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

### アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。



夏の海



冬の海



雪の積もった砂浜海岸



冬の海岸と赤瓦



温かみを感じさせる配色  
道の駅「キララ多伎」



現状



海岸に並ぶ暗い壁面の建物を明るいホワイト系に変え、屋根を赤瓦色に揃えることで、開放感と温かみを感じさせるようにした例

## ② 砂浜海岸

色彩的特徴

構成色は「海の色」「砂浜の色」「草地の色」などです。

陸側から砂浜を見下ろすと海と砂浜が視野の大半を占め、晴れた日には「海や空の明るいブルー」に対して「雲や波のホワイトまた砂のアイボリーホワイトや明るいベージュ」の組み合わせが、お互いの特徴を引きたてながら、さわやかで開放的な印象を生み出しています。曇りの日には海や空はホワイトやライトグレイになり、砂の淡い色みが温かみを加えています。島根県の砂浜海岸は、海水浴場の仮施設や幟などの仮設広告物が少ないので自然景観の微妙な色彩が美しく見えます。

砂浜から陸側を見ると、民家(集落)などの人工構造物と、その背景となる山や丘陵が目に入ります。山や丘陵を辿ると、海と空の間に細く伸びた遠景の山につながる地域が多く、山の色は徐々に青みを帯びて空と海の背景に溶け込んでいきます。冬には海や空はホワイトやライトグレイで覆われる日が多く、山々も黒ずんでいきますので景観の印象も気温の低下とともに寒さの増した印象になりますが、民家の赤瓦はこのような景観に温かみを加えてくれる色彩です。

### 色彩選定のポイント

明るく開放的な印象を損なわないようにすることがポイントになります。さらに冬場の景観を考えると、やや温かみを感じさせる配慮が必要です。

メインカラーに温かみを感じさせる色を用いるケースや、サブカラーやアクセントカラーの配色によって温かみや活気を表現するケースが考えられます。

### メインカラー／サブカラー選定の考え方

明るい雰囲気壊さないでさらに温かみを感じさせる表現が可能な色彩がメインカラーの範囲です。

ホワイトのメインカラーを用いる場合は、ルーフカラーやサブカラーまたアクセントカラーによる演出によって温かみや活気を表現します。

### リブカラーの配色法

照明ポールや柵などの細かい材料の構造物と、橋梁や歩道橋のようにボリュームのある線状の構造物では色域が少し変わってきます。

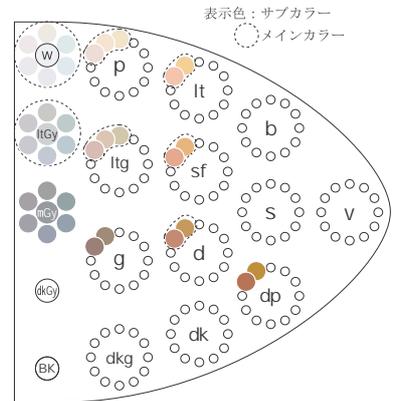
ボリュームのある線状の構造物では、極端に暗い色は近景で重々しく威圧的な感じが強くなるので避けた方が良いでしょう。

アクセントカラー

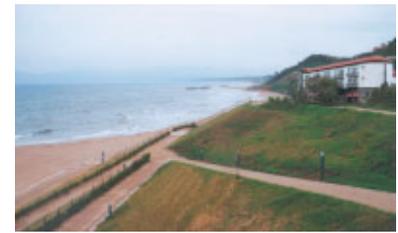
冬場でも人の目に触れる機会の多い施設については、近景において活動的で暖かみの感じられる外観が望まれます。

小面積の部位に用いるアクセントカラーによって、近景の賑わいが演出できます。ただし、面積、形状や位置に関して、周辺景観との調整をはかり、煩雑な印象とならないような使い方が必要です。

この景観タイプにおけるアクセントカラーとしては、蛍光色は避けることとします。



砂浜海岸〈メインカラー／サブカラー〉



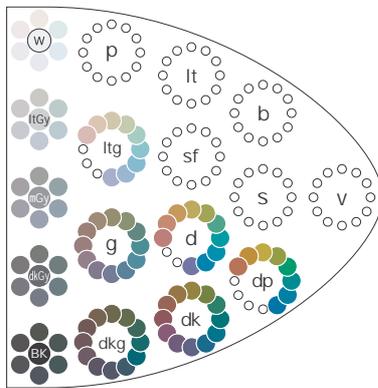
明るい壁面と強いアクセントカラーとの組み合わせで活気ある外観を演出した事例(モンタージュ)



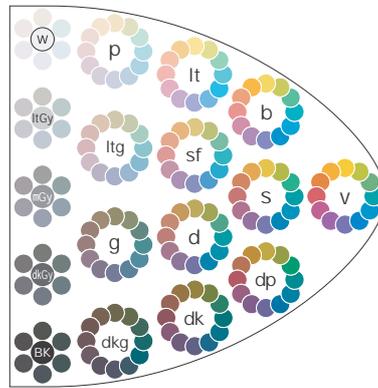
壁面色の明るさを抑えることで落ち着きを表現した事例(モンタージュ)



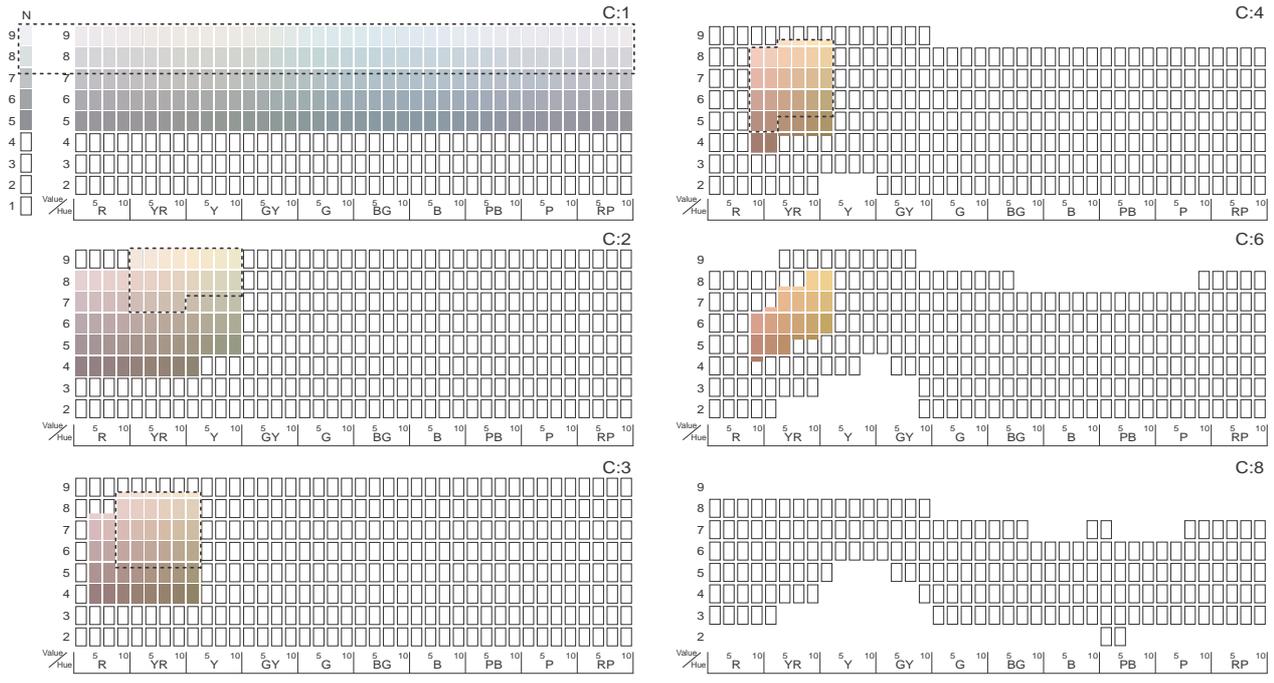
程よいアクセントでソフトさを演出した事例(モンタージュ)



砂浜海岸〈リブカラー〉  
橋梁などボリュームのある線材による  
構造物では dkGy、Bk、dkg は避ける

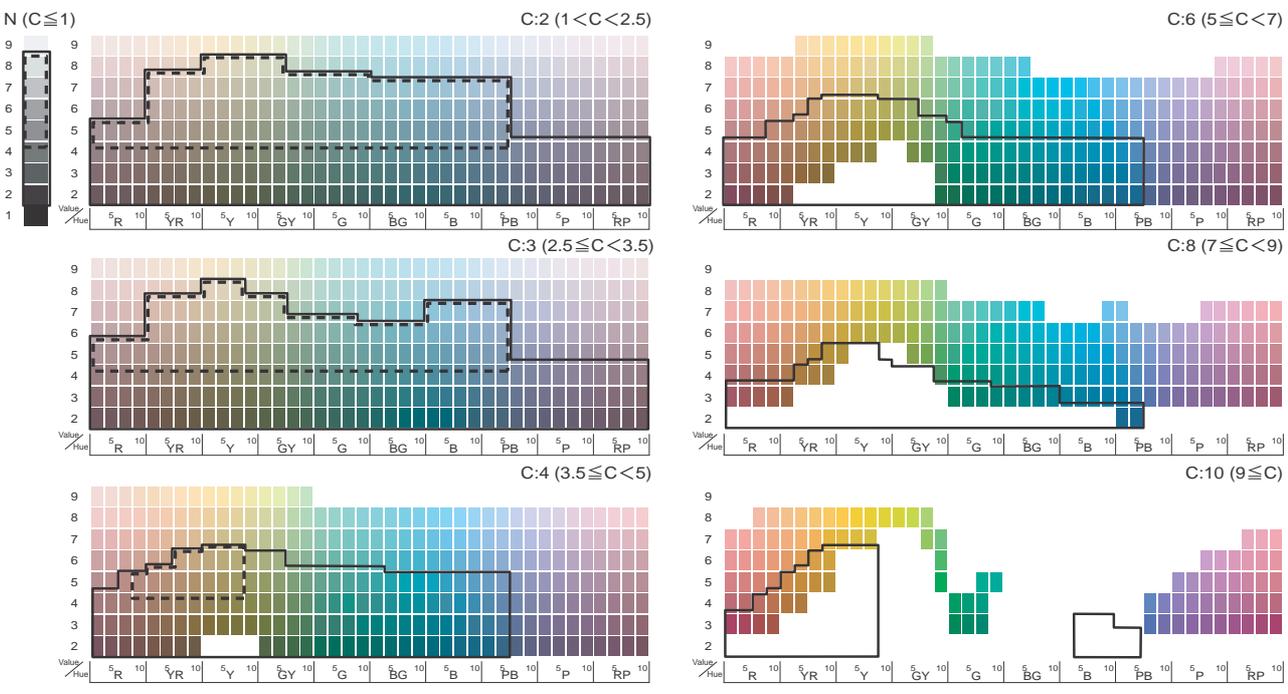


砂浜海岸〈アクセントカラー〉



表示色全体：サブカラー  枠内：メインカラー

砂浜海岸<メインカラー／サブカラー>



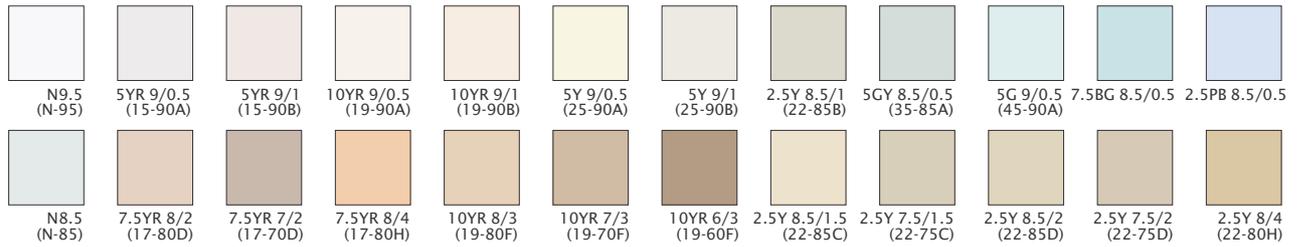
リブカラー  枠内：橋梁、柵、照明柱、電柱、標識柱等の柱 (直径400mm未満)  
 リブカラー  枠内：柱 (直径400mm以上)

表示色全体：アクセントカラー

砂浜海岸<リブカラー／アクセントカラー>

## カラーパレット 砂浜海岸

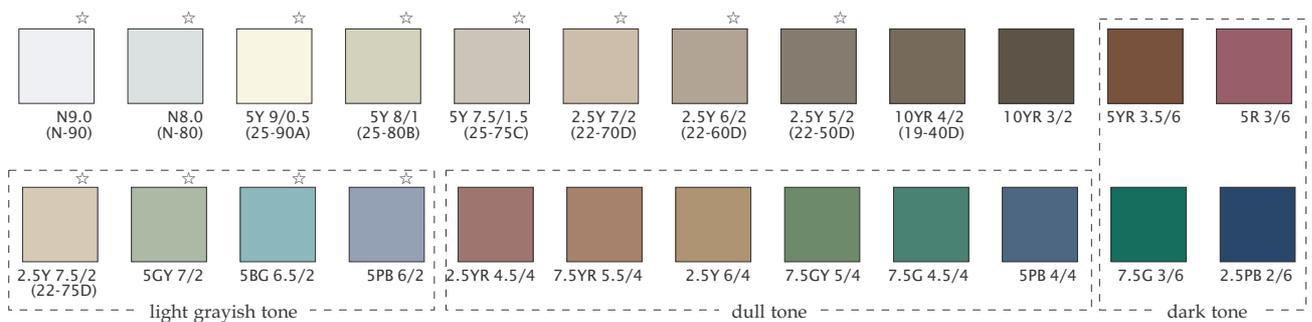
### メインカラー



### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

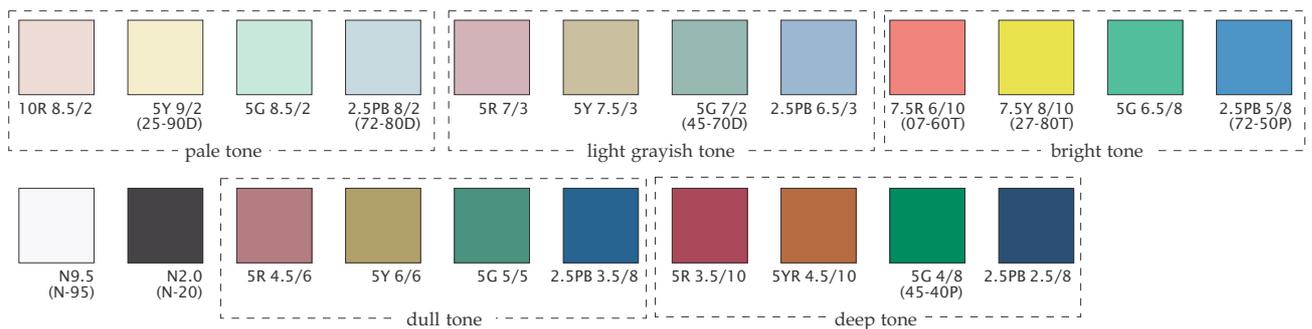


### リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

### アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。